経　歴

平成１８年　４月	総務省採用
	同　自治行政局自治政策課
平成１８年　８月	徳島県県民環境部地域振興局市町村課
平成１９年　５月	同　企画総務部財政課
平成２０年　４月	外務省国際協力局総合計画課
平成２２年　４月	総務省自治財政局調整課
平成２３年　４月	滋賀県総合政策部企画調整課主席参事
平成２４年　４月	同　総務部自治振興課主席参事
平成２５年　４月	現職

女子だけど管理職です、母だけどフル回転です！

滋賀県琵琶湖環境部環境政策課長

南里 明日香

Asuka　Nanri

女子だけど管理職です

平成23年４月、愛する旦那様を東京に置いて、私は滋賀県庁最年少管理職となりました。幼い時に琵琶湖を見たことがあるぐらいで、友人も親戚もない土地です。何が美味しいのかも、どんな県民性なのかも知らないし、千葉県生まれの私は関西弁もしゃべれません。それでも、登庁初日の胸には、希望がりんりんと輝いていたことを覚えています。昨日までの、東京での勤務―各省と財政面の折衝を行っていた議論の数々―が、やっと現場でリアルにすることができる！制度官庁であるとともに、徹底的な現場主義を貫く総務省の一番の面白味はここにあります。

私は、今年度から琵琶湖環境部環境政策課長を拝命しました。隣接県の原子力発電所の事故を想定した放射性物質の琵琶湖への影響シミュレーション、「びわ湖の日」に関西1,450万人の命の水源である琵琶湖に「思いやる」機会を提供させていただく（株）セブンイレブンとタイアップした官民連携事業の企画、湖つながりで30年間の絆を結んでいる友好都市中国湖南省の子ども達への環境学習の実施。自他ともに認める環境先進県において、前例のない絵を描くことが許されることのありがたさをかみしめる毎日です。一緒に悩み、悔しがり、喜び、そしてまた考えてくれる滋賀生まれ滋賀育ちの県庁の同僚とともに、そこに何かちょっと新しい視点を入れたいな、と日々考えています。

勘違いしてはいけませんが、国から来た我々に期待されるのは、偏差値なんかじゃありません。外から見たしがらみのない目線と突破力。時には知事へ提言することも求められます。そういった中で、私が最も心がけていることは、驕らないこと、慢心しないことです。自分より一回り、二回り年上の職員が多い課のリーダーたることは、毎日が人間道場であり、東京での何年分の仕事もしているような、MBAより実践的なマネージメントを日々学んでいるような気になります。

母だけどフル回転です

そして、実は私は、ママ管理職でもあります。滋賀では、保育園児を抱えての２人暮らしです。私には、夜中まで職員と議論し続け、根性で乗り越える仕事スタイルは選択出来ません。ですが、子どもが生まれてから、この子の未来のためにはどちらの政策を選択すべきか、という思考軸が加わったこと、これは私の大きな財産であったと思います。そして、子どもが寝てからが私の大切な時間です。低く音楽をかけ、課員が作ってくれた書類を添削し、明日議論すべき点に赤ペンで丸を付ける。夜の静けさは、課員がどんな気持ちでこの文章を書いたのかな、ということに思いを馳せる余裕もできます。

思いっきり働いた後は、思いっきり子どもに向き合えます。正直、育休中より全力で子どもと対峙しています。本県の嘉田知事に教えていただいた子育ても仕事も全力投球という姿は、私のこれからに大きな光を照らしてくださいました。職場の親睦旅行にも参加した息子は、すっかりうちの課のサブメンバーのようです。人懐っこく、たくましく育ちつつあり、湖畔の散歩を楽しむ笑顔はすっかり滋賀の子です。子煩悩な父が毎週土日にせっせと滋賀へ帰って（？）くるのが、母子ともに楽しみです。

一緒に明日を創る議論をしよう

８年前、私が総務省に入ったのは、「おもしろいことがしたい！大きく国の形を変える仕事がしたい！」という、ハイテンションな思考ゆえでしたが、今もその選択に一片の悔いもありません。総務省ほど、広い分野を見ることができる役所はなく、地方行財政という観点から、各省と、地方自治体と、議論を重ね、まさに明日を創造していっているという実感があります。また、総務省ほど、多様な経験を積むことができる場所はありません。ワーキングママでも、遠慮なく（いい意味で！）最前線の仕事を与えてくれる職場と上司には感謝！私にしかできない視点から、存分に政策立案し、未来の日本の形を作っていきたいと思います。

さあ、あなたも、私たちと一緒に明日を創る議論をしませんか。

わが子と琵琶湖を臨む

嘉田知事と協議中

経　歴

平成18年　4月	総務省採用
	同　情報通信政策局情報通信政策課情報セキュリティ対策室
平成20年　7月	同　行政管理局行政情報システム企画課
平成22年　7月	同　大臣官房企画課企画調査第五係長
平成23年　7月	同　情報通信国際戦略局技術政策課研究推進室国際研究係長
平成24年　8月	内閣官房国家戦略室主査
平成24年12月	同　日本経済再生総合事務局主査
平成25年　7月	現職

日本経済再生への道

内閣官房日本経済再生総合事務局参事官補佐

内田 雄一郎

Yuichiro　Uchida

経済政策の最前線

平成24年12月26日に発足した第二次安倍内閣。一丁目一番地に掲げられたのは「経済の再生」でした。同日、経済再生の司令塔として日本経済再生本部が設置され、1月3日にはその事務局を担う日本経済再生総合事務局の業務がスタートしました。まさに異次元のスピードで“アベノミクス”のロケットスタートが切られたのです。それから本一冊は書けるであろう数々のドラマを経て、平成25年6月14日にアベノミクス“第三の矢”安倍内閣の成長戦略である「日本再興戦略」が閣議決定されました。（余談ですが、その前日に私の第一子が誕生しました。いろいろな意味で忘れられない２日間となりました。）

日本再興戦略は、日本経済再生本部の下に設置された産業競争力会議での議論を踏まえ策定されました。同会議には、民間議員として竹中平蔵氏、三木谷浩史氏をはじめとする錚々たるメンバーが名を連ね、自由闊達な議論が展開されました。そこでの議論を整理して関係省庁に検討を要請する、検討が進まないようであれば各省庁と民間議員との間に入り打開策を見い出すといったことが、我々事務局の仕事です。私は「IT（情報技術）」分野を担当しました。民間議員との考え方の違いから、親元＝総務省との間に挟まれ苦しい思いもしました（笑）が、そこは是是非非の議論を積み重ねることで、何とか閣議決定まで漕ぎ着けることができました。

そんな難産の末に放たれた日本再興戦略をパラパラとめくってみましょう。「日本産業再興プラン」の大きな柱の一つとして「世界最高水準のIT社会の実現」が位置付けられているほか、いたる所に「IT」あるいは「ICT（情報通信技術）」といったキーワードが散りばめられていることに気付くはずです。「医療・介護情報の電子化の推進」「IT等を活用したインフラ点検・診断システムの構築」「IT・ロボット技術等を活用した農林水産物の生産・流通システムの高度化」などなど。これはすなわち、ICTはあらゆる社会・経済活動の重要な基盤であり、新たなイノベーションはICTによって生み出されるということを示唆しています。三木谷議員はこれをシュンペーターの経済成長理論も引用しつつ「イノベーション＝新結合≒経済成長の主要因」であり「インターネット・ICTはこれら全ての新結合の最重要カタリスト」であると表現されました。

日本の未来とICT

断言しましょう。この国の未来はICTと共にあります。少子高齢化、エネルギー制約、財政再建。課題先進国と言われる我が国が直面する諸問題、それを解決するカギはICTが握っています。もちろんICT“だけ”で全てが丸く収まるわけではありません。その可能性を提示し岩盤を切り拓いていくこと、それが総務省に求められている役割です。この世界のコミュニケーションの姿は、加速度を増しながら日々変化し続けています。私が入省した平成18年、iPhoneやtwitterはまだこの世に存在しませんでした。それからまだ10年も経っていないのです。安倍内閣の成長戦略に終わりはありません。平成26年1月には「成長戦略進化のための今後の検討方針」を取りまとめ、日本再興戦略の改定に向けた議論もスタートしました。ICTでアベノミクス。一緒に異次元のスピードを楽しみましょう。

新経連の勉強会で講演を行う筆者